

なごやか地域福祉

ニュース



これから求められる地域づくりについてご紹介します！



現在、国では、若者も高齢者も、女性も男性も、障害や難病のある方々も、一度失敗を経験した人も、みんなが包摂され活躍できる社会として、「地域共生社会」の実現を目指す国づくりが進められています。

キーワードは「我が事」「丸ごと」！



従来の制度や分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が地域における課題を、自らの課題「我が事」としてとらえ、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指しています。

「地域共生社会」実現の全体像イメージ

“我が事”

我が事・丸ごとの地域づくり

- ・住民主体による地域課題の解決力強化・体制づくり
- ・市町村による包括的な相談支援体制の整備
- ・地域づくりの総合化・包括化（地域支援事業の一体的実施と財源の確保）
- ・地域福祉計画の充実、各種計画の総合化・包括化等

“丸ごと”

サービス・専門人材の丸ごと化

- ・公的福祉サービスの総合化・包括化（基準該当サービスの改善、共生型の報酬・基準の整備）
- ・専門人材のキャリアパスの複線化（医療・福祉資格に共通課程の創設、資格所持による履修期間の短縮、複数資格間の単位認定の拡大等

地域共生社会の理念の共有化

国、自治体、社団法人、住民の責務と行動

出典：厚生労働省

日頃「ちょっと思いやる」ことから「我が事」が始まり

ちょっと手伝ってみよう

なにに困っているのかな？



ちょっとしたつながりが新たなお互いさとなり、やがて「丸ごと」に。

公式ホームページでは、計画の推進状況を順次お知らせしています。

なごやか地域福祉2015

検索

それぞれの地域での“連携・協働”の取り組みを紹介します！



地域の企業と専門機関が連携した見守り支援活動 ～見守りあんしんプラス～



守山区では、名古屋中日会守山支部と守山区東西いきいき支援センターとが連携した新たな見守り支援活動として「見守りあんしんプラス」が始まります！

この取り組みは、いきいき支援センターが把握する見守りの必要な方について、区内の中日新聞販売店が中日新聞の購読の有無に関わらず、日頃の新聞配達ルートの中で安否確認を行い、対象者の安否が心配な状況にあることを把握した場合には、いきいき支援センターへの連絡を行うという取り組みです。

中日新聞販売店の岩城さんと青木さんにお話を伺うと「日頃から自分たちが仕事をしている地域のために何か役にたつことができないかという思いがありました。平成29年2月に開催された「見守り協力事業者との交流会」に参加したことで、自分たちの思いといきいき支援センターの思いが近づいていったと感じています。」とお互いの思いを知り、共有していくためのコミュニケーションの重要性について話されています。

今後は、少しずつこの取り組みを広げていながら、地域の中で見守りの必要な方を支えていくために、新聞販売店以外にも多様な主体に関わっていただき、重層的な見守りの仕組みづくりを進めていきます。

分野や制度の枠を超えて地域・専門機関が連携を ～千音寺学区情報共有会議～

中川区の千音寺学区では地域住民と専門機関、行政等が集まり、「千音寺学区情報共有会議」を定期的で開催しています。

福祉に関する相談が多く、内容も複雑化してきていることから、それぞれが個別に解決することが難しく、地域住民側、専門機関側双方において、何か連携ができないかと声があがったことがきっかけでした。



区政協力委員長、民生委員児童委員協議会、区役所・支所、市住宅供給公社、障害者基幹相談支援センター、いきいき支援センター、区社会福祉協議会が一堂に会し、個別の相談ケースをはじめ、住宅、認知症、障害等、地域の中で課題となっていることを共有しています。

従来から個別には相談や共有を行っていましたが、関係機関と地域住民、あるいは関係機関同士の二者関係では見えてこなかった視点が見えてきます。

実際にこの情報共有会議をきっかけとして、高齢の親と引きこもりの子の支援について、いきいき支援センター、障害者基幹相談支援センター、自治会、民生委員が分野や制度の枠を超えて関わりあい継続的な支援に結びついた事例もあります。

今後もこのような事例を蓄積し、複雑化する福祉課題について、地域の中で協議し連携しあえる体制づくりをすすめていきます。



【編集・発行】 名古屋市健康福祉局高齢福祉部地域ケア推進課 ・ 名古屋市社会福祉協議会総務部

Tel 052-972-2548 / Fax 052-955-3367